

開催地名：千葉県東金市	
開催日時	令和2年2月2日（日） 10：30 ～ 12：00
開催場所	中央公民館
語り部	山田 修生 （宮城県仙台市）
参加者	自主防災組織、区長会 約80名
開催経緯	近年、全国で大規模な災害が発生しているが、東金地域では幸いにも、教訓となるような災害が発生していない。毎年、地震を想定した防災訓練や各区の自主防災組織が主体となる避難訓練や安否確認訓練等を実施しているが、自主防災組織の中には実災害時の対応に不安を抱えている団体が多い。今回語り部の講演を実施することにより、自主防災組織の活動を活性化したい。
内容	（１）はじめに 今一度、東日本大震災の私自身の体験をお話したい。私は所用で自宅に帰っていたが、突然、地下からすごい勢いで突き上げる感じの揺れを感じた。体がゴム毬のように床からボーンと上がる。そして縦揺れ、横揺れ、今度はななめ揺れと、どうしたら良いか分からないような揺れが長く続いた。そのあと、大きな津波が来ると思い、住んでいるマンションの居住者を避難所へ誘導した。これまで実施してきた避難訓練は町内会の有志が集まってやっていたが、町内会ごとの自主防災組織は全く稼働できず、家族、あるいは近所同士の小単位で避難を余儀なくされたのが実情である。避難訓練は土曜日や日曜日など、就業者にとって都合の良い日時に行われているのが現状であるが、東日本大震災のように平日の午後、就業者（特に男性）がほとんどいない時間帯に発生する可能性も充分あるので、例えば女性を中心とした避難訓練も実施していただきたい。 （２）避難所運営について 避難所では 名簿班、総務班、情報広報班、救護班等に役割を分担するのが望ましい。とりわけ総務班は、地域ごとのスペースの割り振りを担当するが、ダンボールで各自の区分を仕切る際に、必ず世帯ごとに、他の世帯を通らずに通路に出られるようなレイアウトで設定することが大切である。情報広報班も重要な役割を担う。伝達事項は必ず全員に伝える必要がある。そのためには情報を掲示板に貼り出すことが有効である。さらに、紙にマジックで良いので避難者の名前を全員書き出して掲示してほしい。これは安否を確認しにきた人のためにも役立つ。また、避難者名簿を扱うのもこの班だが、くれぐれもプライバシーには注意してほしい。むやみに避難者名簿を配らないことである。食料については避難者全員への配布が大前提である。全員分が揃うまで一切配らないことが大切である。

避難所では 携帯ラジオが役立った。暗闇の中でもラジオがあると安心できる。避難するときは携帯ラジオと懐中電灯、薬、できれば乾電池を持つことを心がけてほしい。預金通帳や印鑑などは必要ない。

(3) 被災者支援について

自宅避難者への対応について、特に注意をお願いしたい。小学校、中学校の指定避難所に避難しないで、自宅にとどまると主張する方が、特に高齢男性の方を中心に一定数存在するはずである。避難所に行けば食料等も提供されるが、自宅に残っている方は、どうしても忘れられてしまう。自宅に残った方々の情報もしっかりと把握した上で、物資の供給等を行っていただきたいと思う。高齢者の一人暮らしについては、単独で避難できない方もいるので、十分な注意喚起をお願いしたい。

(4) 震災から学んだこと

身に付けた知識、経験の全ては決して裏切らない。1 回経験したこと、あるいは、1 回自分で行ったことは必ず役に立つ。防災訓練、避難訓練については、役に立たないと思わずに、いざとなったら必ず役に立つと考えて、積極的に、家族全員で参加していただきたい。日頃の取組が、災害時にあなたを助けてくれる。今日から取り組んでいただきたい。



開催地より

住民の方々に防災の意識を持ってもらうことは難しいが、災害の記憶が薄れている当市では、このような体験談を聞くことは大変意義のある事だと感じた。防災訓練も平日の災害発生を想定した内容で行い、女性や高齢者など多くの方に参加してもらえよう工夫したい。